

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600184		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム ことぶき荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字大野6360番地6		
自己評価作成日	平成24年2月13日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成24年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

結婚式場だった所をリフォームしてあり、広々として落ち着いた空間づくりになっている。1人ひとりの持たれている能力を引き出して、出来る事の喜びを感じて頂き、家庭的な雰囲気のことで、穏やかに生活して頂けるよう黒子のケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前、結婚式場として使用されていた建物をリフォームしてあり、広々とした共用スペースが作られていた。また、法人内で、病院、デイサービスセンター、有料老人ホームなどの多様なサービスを展開しており、職員の研修制度を充実させるなど、法人のメリットを生かした施設運営ができています。管理者は入居者に対する接遇にも力を入れており、「一緒に楽しくのんびり」というホームのモットーを掲げ、運営に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、毎朝の申し送り時に職員で唱和している。また、年間の抱負も掲げ、荘内に掲示して、理念の実践に取り組んでいる。	法人全体の運営理念とは別に事業所独自の理念を掲げ、毎朝の申し送り時に職員で唱和している。また、年間の抱負を掲げることで理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候のいい時は散歩をしたり、ことぶき荘の行事に地域の方にも参加して頂き、交流をしている。	地域の方も参加する母体病院のイベントに参加したり、事業所が単独で行なう夏祭りに近隣の方も参加してもらうことで、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に行事の声かけして参加して頂き、入居者様との関わりにより、認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域・ご家族が参加して頂き、入居者様の身体の状況や荘に関係の報告を行い、出席者の方から意見や質問を頂き話し合いにより、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に一度、運営推進会議が開催され、活発な意見交換が行われている。また、議事録も詳細に記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方とは連絡や相談など電話で話したり、直接訪問して話をしている。担当者の訪問も定期的であり、協力関係が築けている。	行政の担当者とは、運営推進会議以外でも、密に連絡をとることで協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体が身体拘束しない取り組みを行っている。職員全員は周知して、玄関に施錠などしないで、常に見守りを行うケアに努めている。	身体拘束廃止のマニュアルの整備や、職員研修などを徹底することで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会や情報から学ぶ機会があり、暴力だけではなく、言葉の暴力など他の虐待もあることを認識しているが、日頃の声かけや口調には十分注意するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度に対して、研修で学んだ事はあるが、まだまだ理解不足であり、適切に対応出来るように今後も研修など参加したいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約書を元に利用者、ご家族に管理者が説明をして、理解、納得して頂き署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見・要望がある時はその都度説明をしている。またご家族や運営推進会議時に意見・要望をお尋ねし、運営に反映するように努力している。玄関に意見箱を設置している。	入居者や、家族に対する日頃の接し方について、意見や要望を言いやすい雰囲気を作ることを心がけている。また、出された意見や、要望については検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員に意見や提案を出し合う場を設けている。法人の代表者や事務長に意見・相談して、運営に反映させている。	ミーティング時に職員に意見や提案を出し合う場を設けている。また、管理者は意見が言いやすい人間関係を構築するように努力している。出された意見については、検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードの確認、職員の研修レポートに目をとられ、勤務態度など見られていると思う。それによって異動、昇給、賞与に繋がると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で教育委員会があり、勉強会や研修の年間計画が立てられている。研修費や交通費の支給制度もあり、法人外の研修や資格を習得により個人の質の向上に努力するように指導をうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っている。研修会や勉強会に機会があり、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人とご家族に見学して頂き、不安なことや要望をお聞きしている。入居時は皆様不安があられる為、安心されるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に見学して頂き、ご家族とお話する機会を設けて、その時に不安なことや要望をお聴きしている。入居されてからの状況は報告しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される前にケアマネジャーと共に相談に見られ、その時状況等をお聴きして、ご利用が望ましいか見極められている。また、相談にみえられた時はお話をお聴きして、他の施設の利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の経験を生かして出来る事をゆっくりでもして頂き、出来ない部分を手伝うような介護に心掛けている。調理の仕方や、諺など教えて頂き、一緒に生活している関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関わりを多く持つて頂くように、自由に面会して頂き、その時に日頃の生活状況をお話している。時には外出・外泊等の協力を得て家族の絆を大切に頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも気軽に面会できるようにしている。外出・外泊も供養やお墓参りなども兼ねられ関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の面会が継続して行われるように配慮を行っている。また、ドライブなどの折に、入居者が以前生活された地域に行くなどの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい方、気の合う方、気が合わない方など入居者様の関係を把握して、その時の状況により関わりが上手いくよう配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも訪問されたり、はがきを頂いたり、町で会った時はお話したりしている。法人や他の病院に入院された時は面会し、また、回復されたときの事をご家族と相談し合い、継続的な関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で本人の希望や意向は把握してできる限り尊重したいと思っているが、困難な場合も説明を行い理解して頂いている。	職員は入居者が、思いや意向を伝えやすい態度や、雰囲気ですぐに接することを心がけている。把握が困難な場合も、家族からの聞き取りなどを参考にし本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時はご本人やご家族、また他のサービスを利用されていた場合は、そこからの情報などから生活歴、暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の心身の状態を把握して、有する力量にあわせて、出来られる事をして頂き、出来られない部分を手助けするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にご本人、ご家族、主治医などの意見をお聞きして、カンファレンスで職員の意見を出し合い、介護計画を作成している。	入居者、家族、主治医の意見を踏まえ、職員同士で話し合いながら、介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、気づき、ケア実施を個人の介護日誌に記録している。職員間の情報を共有しながら、また状況に応じて見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の身体・精神的変化より、その時の状況に応じた対応をしている。また、ご家族の要望をお聞きして柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の行事や散歩に出かけている。花見や紅葉狩りに車で出かけ楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人の医者であり、定期的、また、異常時はすぐに連絡して対応されている。歯科は訪問診療を受けている。家族の希望や主治医の紹介により、他の専門医に受診されるよう支援している。	かかりつけ医は入居者の希望により選ぶことができるが、同法人の医師を希望される方が殆どである。また、家族の希望やかかりつけ医の紹介により、他の専門医に受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃の関わりで気づきや状態を訪問時に看護師へ相談したり、異常時にはすぐに報告して、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合がお見舞いに行き、病院関係者との情報交換やご家族からの状況をお聞きして相談に努めている。退院後の相談もご家族を通じて医療機関との連携が図られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時にご家族に説明しているが、状態が悪化された時は主治医とご家族と施設長が話し合いを行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族に書面で説明し、同意を得ている。状態が悪化した場合は、かかりつけ医と家族、施設長が話し合いを行い方針を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時の対応のマニュアル化しており、看護師による急変時の勉強会を行っている。急変時は医師に連絡して指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼と夜間想定訓練を行ない、避難誘導方法を把握し、出来るようにしている。地域の方にも協力をお願いしている。火災以外の災害時の避難場所などはミーティングの時に話をしている。	地域と、母体の病院が共同で実施している訓練に事業所として参加をしている。また、事業所単独でも、昼と夜間想定訓練を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあり、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行い、個人のプライバシーを損ねないようさりげなく声かけや対応をするように努めている。	管理者は、入居者に対する接遇に力を入れており、その都度指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人の思いや気持ちを受け入れた介護に努めている。また上手く表現できない方の気持ちも汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側にある程度は決まり事はあるが、一人ひとりの意思を尊重し、その時の状況に合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好まれる洋服を選んで頂き、衣類の調整が上手く出来られない時は支援している。マニキュアなどのおしゃれも喜ばれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや食べたいものを聞いて献立を立てたり、季節の食材で美味しく、盛り付けにも工夫をしている。調理の下ごしらえや盛り付けをして頂き、同じテーブルで一緒に食事を摂っている。	入居者の希望を聞いて食事の献立に反映させている。また、食事の場面では入居者、職員が同じテーブルに座り、会話を楽しみながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚・野菜と栄養バランスを考え、個人の摂取量・形態に応じて提供している。水分も食事やおやつの時だけでなく希望時は提供している。時々おやつも手作りでお饅頭など自分で作ったものを召し上がり喜ばれる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをおこない、磨かれている。義歯の方は職員が洗浄し、その後うがいをされている。夜間は義歯は預かり消毒しているが、個人の希望で夜間も使用されている方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけしたり、失敗がないよう時間毎の誘導を行っている。夜間は自室でポータブルトイレを使用されている方もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響は理解している。食事・水分・運動により、排便のコントロールが上手いくように心がけている。排泄チェックにより便秘の場合は処方の下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思により入浴頂いている。その日の体調に合わせて入浴の支援をしている。	入浴は1日おきの入浴となっている。入居者の希望や体調によって、変更を適宜行うことにより個々にそった支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息されている。個人の睡眠のありかた、場所・時間により支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明は介護記録に綴じて職員が理解している・与薬は確実に、誤薬や与薬忘れが無いよう二人の職員が確認し、支援している。また、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、趣味をお聞きして、料理の下ごしらえや盛り付け、準備や後かたづけ、洗濯たたみ等、出来る事をして頂いている。レクリエーションなども楽しんで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい時は荘外散歩にでかけ、気分転換を図っている。花見にはお弁当を持って出かけた、紅葉狩りにも出かけている。また、ご家族の協力により、外出を定期的になされている。	気候の良い時は、近所の散歩に出かけている。また、ドライブなどは入居者の要望を聞き、コースの検討が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれていても、何処にしまったか？わからなくなり管理が出来られない為、事務所預かりとなっている。買い物の希望時は一緒に出かけ買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時はかけて、話されている。家族や知人からの電話も取り次いでいる。はがきなどのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大広間でテレビが見れる場所、食卓兼テーブル、台所では食事の支度が見渡せ、調理中の音や美味しいそうなおいを感じて頂き、一緒にできる空間づくりになっている。玄関にはプランターに四季折々の花を植えて観賞したり、毎日の天候を窓越しに感じて頂いている。	共用の空間には、季節を感じさせる品々が飾られている。また、共用のスペースを広くとっており、開放感のある居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具調椅子やソファに気の合う入居者様同士でテレビを見たり、お話したり、思い思いに過ごせるような居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅が使われていた馴染みのタンスや鏡台など持ち込まれ使用されている。	馴染みの品の持ち込みは原則として自由に行うことができる。また、居室には入居者が見やすい位置に表札が掛けてあり、部屋の間違いが起こらないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を掲示して、トイレもわかるように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		